

## 学会記事

任意団体日本地質学会の議事録を掲載しています。

### (任)日本地質学会2009年度 第8回理事会議事録

2010年2月13日  
日本地質学会  
会長 宮下純夫

期日：2010年1月9日(土)

13:00~15:30

場所：地質学会事務所

出席者：佃副会長、高木副会長、藤本副常務理事 井龍 石渡 上砂 齋藤 久田 矢島 各理事、橋辺(事務局)

欠席者：宮下会長、渡部常務理事、岩森 倉本 坂口 小嶋 藤林 向山

\* 成立員数(12/17)に対し、出席者9名、委任状7名、欠席者1名で、理事会は成立。

\* 前回議事録の承認

#### 報告事項

1. 運営財政部会(部会長-上砂, 向山, 倉本, 坂口)

総務委員会(委員長-上砂)

・三菱財団平成22年度自然科学研究助成の公募：2月10日-3月10日→News, geo-flashに掲載

・「第10回こどものためのジオカーニバル」実施報告書がとどいた。

・広島大学大学院理学研究科、准教授の公募→News, geo-flashに掲載

・学術会議科学者委員会学術誌問題検討科会から学術誌に関するアンケート、締切1月15日 久田編集委員長から回答

会員関係(担当理事-向山)

1) 入会者5名

正会員(1)(2010年度より入会)岩岡尚則

正々(院割)(2)安川和孝(2010年度より入会) 岡子田香織

準会員(2)岡崎遼太郎 竹原真美

2) 退会者3名(正3)安藤 勸 杉原 薫 吉田真見子

3) 逝去者2名(正2)鈴木康司(11/8逝去) 植田和男(11/9逝去)

4) 12月末日会員数

賛助30, 名誉73, 正4222(うち院217), 準32, 合計4357(前年同期比-105)

5) 法人との兼用会員名簿の発行

予定より半月ほど遅れたが、来週中に刊行予定、表紙の表記は従来通りを踏襲。定款や規約類は法人のものを中心に掲載した。

会計関係(担当理事-向山)

・富山大会の業務委託の見積もりは地元業者を含め2社からとり、内容を検討した結果、岡山大会を委託したアカデミックプレインズに再見積もりを要請した。今後の業務委託等の可能性も含めて再検討の結果、アカデミックプレインズに発注することとした。

・年会登録システム構築に際してのクレジット決済導入の検討をした。

大手の代行会社の説明を受けたが、代行経費および審査面でかなり厳しい面もある。クレジット代行決済システムの導入のためには、あらかじめ代行会社を決定する必要があることと、先のスケジュールを考えて、今回は年会費用の決済のためにだけ、ということで、システム会社から紹介された会社に、代行の申請を行うこととした。料金的には大手の会社より安価である。

・来年度からの支部会計について、事業区分および科目分けも含めて各支部に通知をした。

・リーフレットの編集費用について検討し、覚書案を作成した。

・派遣会社より、紹介派遣の方を3月までの契約でお願いした。その後双方が合意した場合には、正規の職員として雇用できる。

広報委員会(担当理事-倉本=情報特任・坂口)

・フォトコンテスト最終合計出品数436点、技術的な面での一次審査により337点に絞り、最終審査を1月19日におこなう。

2. 学術研究部会(部会長-石渡)

行事委員会(担当理事・委員長-斎藤)

・富山大会について

富山大学に対し、後援依頼を提出した。また、業務委託はアカデミックプレインズに引き続き依頼する。ニュース誌1月号にて、シンポジウム等の募集を行う。

・2011年度の大会は、茨城大学を会場とした水戸大会とする。

会期については、評議員会での意見も踏まえて各方面に意見聴取を行い、9月第2週は地元の学校の試験や運動会などが重なる可能性が高く、会場の確保も困難なこと、教員向け行事は時期をずらして実施することが可能なことなどを考慮し、当初案通り9月2日~4日とすることとした。

実行委員会の構成は以下のとおり。

実行委員長：天野一男、事務局長：岡田誠、庶務：本田尚正(会場等)・長谷川健、会計：藤縄明彦(鉱物科学会との調整)、見学旅行：安藤寿男、教育・普及：牧野泰彦・伊藤 孝・田切美智雄・久田健一郎(筑波大)・天野一男(窓口)

国際交流委員会(担当理事-石渡=国際特任理事)

・モンゴル・韓国との学会交流についてはニュース誌に掲載

・モンゴルは、政府と民間の関係者が鉱山関係の会議を東京で行うなど積極的

3. 編集出版部会(部会長-久田, 小嶋, 岩森, 井龍)

地質学雑誌編集委員会(委員長-久田 副委員長-小嶋, 岩森=企画担当)

・刊行状況

115-12月号：特集号「陥没カルデラ(I)：構造とマグマ」論説5 口絵1(63ページ・発行済)

116-1月号：総説1 論説3 報告1 短報1 口絵1(60ページ・校正中)

116-2月号：総説1 論説2 短報2 報告1 口絵1(約65ページ・入稿準備中)

・2009年度投稿論文 総数73編[論説40(和文39 英文1), 総説11(和文11) 短報18(和文17 英文1), ノート3(和文3) 報告1(和文1)] 口絵8(英文4・和文4)

投稿数昨年比-48(特集号が要因 現在掲載待ちの原稿が多い)

・今月の投稿・編集状況(1月8日現在)

2010年度投稿論文 総数3編[論説3(和文3)] 口絵1(和文1)

査読中 53編 受理済み 20編(うち通常号7 特集号13)

Island arc編集委員会(担当理事-井龍, 事務局長-竹内圭史・角替敏昭)

・編集状況報告(12/31現在)

企画出版委員会(担当理事-藤林)

・リーフレット規則類の文言の修正について

・「城ヶ島たんけんマップ」の企画提案書が出版企画委員会に出された。リーフレット企画出版委員会において、企画提案書提出後の具体的な取扱い手続きについて検討中のため、提案書の検討はその後に行う。

4. 普及教育事業部会(部会長-矢島, 藤林)

地学教育委員会(委員長-中井均)

・JSEC2009の最終審査会に矢島が参加 同審査会の審査委員に地球科学関係者がいないとのことから、JSEC事務局に地質学会として要望書を出すことについて検討した。

地層名委員会(委員長-天野)

・12月29日学会事務局にて、1月22日開催の四紀問題シンポジウムに関し、第四紀の基底に関する緊急会議として学術会議INQUA部会の正式会議を開催、同会議にIUS部会、INQUA国内委員会、第四

紀学会、地質学会が参加。

- ・公開シンポジウム「第四紀の時代一人類は残った」について、文部科学省および経済産業省の記者クラブに対し、プレスリリースを行った。また、文部科学省記者クラブにおいて、20日11時より、同シンポジウム関連の事前レクチャーを開催する。

#### 5. 各委員会等

- 法務委員会（担当理事・委員長-上砂）
  - ・利益相反規則、除名規則、倫理綱領を名簿掲載のために微修正を行った。
- 各賞選考委員会（委員長-中川光弘）
  - ・25日に各賞の応募が締め切られたが、応募数が少なかったため1月12日まで締め切りを延長し、とりえずgeo-flashに掲載した。
  - 今後若手奨励のためにも各賞の目的を周知し、会員に広く推薦を呼び掛ける。

#### 6. 地質の日委員会（藤林委員）

- ・今年度のポスター原案が提示された。地質学会の本部企画の検討を始める。
- ・地学オリンピックなども関連づける

#### 7. IYPE日本（佃副会長）

- ・3月の終了イベントを宣伝し、学会としても参加を呼び掛ける。

#### 8. 日本ジオパーク委員会（高木委員）

- ・12月に山陰海岸がGGN申請書を提出、阿蘇、室戸も今年JGCに対してGGN候補申請を実施する予定。連合大会で、JGC国内審査を兼ねたシンポジウムを5月23日（日）に実施。地質学会代議員総会との時間調整を今後検討。

#### 9. NPO地学オリンピック日本委員会（久田）

- ・12月20日に一次試験が実施。受験者数は昨年なみ
- ・3月23-26日に筑波でイベントを兼ねた二次試験
- ・今後、地質の日や地質情報展とも連携させた活動を計画中
- ・大学の推薦入試にも地学オリンピックの成績を考慮するように教員も大学に働きかけてほしいと要望。

#### 10. 日本学術会議（佃副会長）

- 1月22日、第四紀問題でシンポジウム開催。

#### 審議事項

- 1. リーフレット規則類の文言の修正について

法人化移行にあたり、リーフレット企画出版委員会規則およびリーフレット出版細則（地質学会リーフレット、国立公園地質リーフレット、同 たんけんマップ）の条文中の「理事会」を「執行理事会」に改めることが提案され、了承された。

- 2. JSEC事務局へ審査委員に対する要望書提出の件  
要望書の原案を了承し、会長名で提出することにした。

#### 3. その他

- 1) 会員数の減少にかかわる若手およびシニア会員への対応について
  - ・若手会員を奨励するためにも、各賞推薦をもっと活発化するように周知する。
  - ・シニア会員については、地質学の専門を生かす活動の場を学会としても提供するよう努めるとともに、アイデアを幅広く募集。今年度内に具体化し、来年度には一つでも実施。広報での呼びかけとともに、支部長にも依頼。
- 過去の経験などについて、ニュース誌への寄稿  
災害調査やジオパークの案内、地質の日などの行事、見学旅行
- ・会計委員会では、会員数の減少とシニア会員の会費値下げの見直しについてのシミュレーションをおこなう。

以上

## 一般社団法人 日本地質学会



一般社団法人日本地質学会としての活動をご報告します。

### （一社）日本地質学会2009年度 第8回執行理事会議事録

期 日：2010年1月9日（土）

15：30～17：30

場 所：地質学会事務局

出席者：佃副会長、高木副会長、藤本副常務理事 井龍 石渡 上砂 齋藤 久田 矢島 各理事、橋辺（事務局）

欠席者：宮下会長、渡部常務理事、岩森 倉本 坂口 小嶋 藤林 向山 各理事

\* 成立員数（9/17）に対し、出席者9名で、執行理事会は成立。

\* 前回議事録の承認

#### 報告事項

1. 名誉会員候補者の推薦依頼を役員および専門部会に出した。締切は2月15日。
2. 各賞選考検討委員会の理事会推薦委員として、メール審議により倉本理事および公文理事を選出し、本人の承諾を得た。
3. 各賞選考規則13項に基づき三賞の候補者情報依頼をしたが、情報はなかった。
4. 産総研地質調査総合センターから、「地質情報展2010とやま」の共催依頼があり、承諾した。
5. 学術会議INQUA分科会、IUGS分科会より、公開シンポジウム「第四紀の時代一人類は残った」の共催依頼があり、承諾した。

#### 審議事項

1. 地質災害対応について  
支部を中心とした災害調査の対応について、法人理事会を中心として審議することとした。地質学会としては、緊急性よりは、地質学的な背景のしっかりした調査結果や見解が出せるように備えることを目的とする。  
災害だけにとどまらずに、地質関係のできごとに対するコメントを迅速かつ的確に出せるよう、本部の体制、支部の体制を構築することを手始めにおこなう。

2. 地震火山こどもサマースクール（地震学会・火山学会主催）への共催参加について共催を了承するとともに、今後より積極的に関わっていけるよう協議を進める。今年8月7日、8日に室戸ジオパークで開催されるこどもサマースクールには、予定も概ね決まっているので後援という形で進め、来年の磐梯山では、3学会の共催として関わるよう、申し入れる（高木担当）。ただし、共催の場合は予算措置が必要。

3. 第四紀問題に対する地質学会の対応に関して

学術会議などとの連名で提出する提言の文案を検討した。特に日本語の呼称については、すでに決められているJISの呼称に現時点では準拠することが望ましいことを確認した。

カンブリア紀の年代区分は現在IUGSで検討中であり、地質学会の地層名委員会としても動向を注視することを要請することとした。

2010年2月13日

一般社団法人日本地質学会  
会長（代表理事） 宮下純夫  
署名人 理事